

## 西岡篤夫先生のご逝去のお知らせ

西岡篤夫東京工業大学名誉教授は2012年2月8日に92歳でご逝去されました。

西岡篤夫先生は1943年東京帝国大学工学部電気工学科卒業後、電気通信省電気試験所入所されました。戦後電気試験所(改組後電信電話公社)において通信用材料としての高分子を中心として基礎研究を行なわれた後、NMR装置を試作し、NMRを用いた高分子の構造とダイナミクスの研究を展開され、高分子のNMRの分野で大きな貢献をされてきました。特に1960年、西岡先生はF.A.Boveyら、U.Johnsenらとは独立に、ラジカル重合およびアニオン重合で得られたポリ(メタクリル酸メチル)の60MHz高分解能 $^1\text{H}$  NMRスペクトルを測定し、 $\alpha\text{-CH}_3$ 基が3本のピークに分裂することを発見するとともに、これらのピークが高磁場からrr, mr, mmトリアッドの立体規則性構造に由来することを解明されました。当時、高分子の立体規則性構造の詳細な解析は困難な状況でしたが、そのbreak-throughを成し遂げられた研究を契機に、NMRを用いた高分子構造解析を進め、先駆的高分子NMR分光学へと展開されました。1967年東京工業大学工学部高分子工学科の教授に就任され、研究室のメンバーとともに、NMRを用いた高分子の構造とダイナミクスの研究をさらに展開させ、高分子科学の発展に多大な貢献をされてきました。西岡先生は、第1回NMR討論会から参加され、1978年第17回NMR討論会世話人をされるなどNMR学会にも大きな貢献をされてきました。先生の多大な業績と貢献をたたえて深く追悼の意を表します。(安藤勲 東京工業大学名誉教授)